

4月会山行 当別町 察来山 & 浜益村 浜益御殿

◆山行日 平成23年4月21日(土)、22日(日)

◆参加者 CL 藤木(晴)、SL澤田 (計13名)
東海林、永宮、西田(芳)、西田(昌)、藤木(た)、鈴木(徳)、相馬、酒井、渡邊、大久保(智)、安藤

◆天候 晴れ時々曇り、無風、気温(到達点) -4℃

◆コースタイム 4月21日 6:00 幌別駅西口出発 9:30 察来山登山口 12:50 察来山頂上 14:30 登山口 17:00増毛町 民宿泊
4月22日 6:30 民宿出発 7:20 リンゴ園 10:00 逢坂山 12:10 浜益御殿手前ピーク 13:40 逢坂山
14:30 リンゴ園着 18:20 高速 輪厚PA 20:00 幌別駅解散

4月21日 当別町 察来山(590m)

朝から好天に恵まれ、最高の登山日和となる気配の中、車3台に分乗しいつも通り、雪解けで樹林の黒さが出てきた樺前、白老三山を横目に高速を走り、7:20 輪厚SAでNさんと合流、江別西ICで降りR28を北上、当別青山方面へ向かう。



当別ダム前で、通行規制にあう。待ち時間で”フキノトウ”摘み。



4番川橋脇でP場

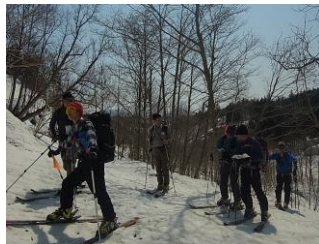
8:20 当別ダム(建設中)前で、雪崩防止でゲート封鎖に合う。

9:00 ゲート解除まで待機するが、待ち時間を無駄にしないのが女性群、その間”フキノトウ”採りに専念。

9:30 神居尻 道民の森を過ぎて、滝川方面へ右折し、登山口となる四番川橋脇のP場に着く。すでに到着の上川のOちゃんが笑顔で出迎え、久々のご対面で



四番川に沿った林道たどる



三連砂防ダムを前に、分岐確認

10:10 青空、無風の天候のもと、積雪もあり四番川に沿った林道をたどり、入山、すでに壺足にトレースがある。送電線をくぐり、右に大きく曲がった所で、1つ目の迷い分岐が出てきて、右にスキー跡があるが、左に道をとる進む。

11:00 目印となる三連の砂防ダムが現れる。ガイドでは右の林道に取りつくことになっているが、リーダー判断で、左林道を進む。

やがて林道はなくなり、また前回同様に隣りの無名山に向かうのではと不安がよぎる。

11:20 斜面をトラバースしながらさらに進むと、突如と見事な『大滝』がサプライズで出現?。滝を拠点に地図読みで、シュートカットで頂上稜線に取付けることが判明、やはり頼りになるリーダー。先が明るくなりラッセルはないが交代で標高を稼ぎ狙いの林道に



落差15m程の大滝に出くわす。この黒覆面だ〜れ



滝の右を回り、ショートカットで頂上稜線にとりつく。

11:40 350m点から尾根が樹林が少なくなり、帰路には斜度も滑るに恰好なゲレンデを少しジグを切って上がる。後方に樺戸山、前方に増毛山々がハッキリ見え、気持ちよく登る。



神居尻山をバックに山頂へ続く稜線を上る。



察来山山頂へは壺足で目指す。

12:50 頂上へと続く稜線は右斜面に雪庇、藪が見え、左の林を抜け、雪解けした頂上下でデポして壺足で頂上(590m)に立つ。

頂上で、これほどの好天、無風に恵まれ、登路側には神居尻山・ピンネシリ、対面の左から小さくであるが尖がった黄金山、真っ白な郡別岳、暑寒別岳がひときは映えて見えるのが印象的であった。『頂上にたったこそ醍醐味』が味わえた瞬間であった。

13:40 頂上の気温も10℃程あり暖かく、青空の下で真っ白な山々をオカズにゆっくり昼食を満喫し、惜しみながら下山。

帰路は、登ってきた道をスキーで降りるが、頂上稜線は林を迂回したため、おいしいゲレンデは後半の一部となっていたが、久々なので知れなりに楽しめた。

14:00 『滝』の地点に戻る、ここからは登り始めに歩いた川沿いの林道は傾斜も緩く、短い登りも出てくるで長く感じながら、14:30 P場に着く。

察来山 アプローチは長い、頂上稜線の白い斜面と増毛山地・樺戸山地の眺望といい、冬山なれでの満足した山でした。



晴天の下、黄金山・郡別岳・暑寒別岳を後方に満食。



察来山 最高!



暑寒荘への道がゲート閉鎖



リーダーが宿探ししているのに、
お手が下とは・・・怪しからん



急きょ、民宿「たけうち」に素泊



皆で手分けして、夕食の準備



増毛海岸に沈む夕日



本日の労を労い乾杯で夕食

増毛を目指し、暑寒国道(R451)を頂上で見た独立峰 黄金山、明日の暑寒別岳を見ながら、途中、浜益の「漁師の店」で恒例のタコ、隣店でジャンボ焼きを、増毛のコンビニで飲物を買出し、暑寒別岳の白い頂きを見ながら暑寒荘への道を走る。

16:30 暑寒荘まで多分3〜4km手前で、ゲート閉鎖されいるでは、「大雪のため、暑寒荘までの道路の除雪は終わっていません 4月26日開通予定」の張紙、それも昨日の張り紙ではないか！暑寒別岳が目の前に見えていながらサーー大事。

事前確認したとはいえ、自然の力に屈するkとなく、このままでは引き下がらないのが、リーダー、サブリーダー。暑寒荘は宿は断念し、地元の山岳員と連絡をとり、宿探しに懸命。我々はただ見守るばかりで力になれず。これこそ窮地でのリーダーとしての力量、底力を知らされる。

増毛に素泊まりできる民宿『たけうち』が見つかり、一安心、増毛市街に戻る。

17:00 海沿いのこぎれいな民宿で、貸切状態。沈む夕日を見ながら、玄関先で夕食作り、行き交う町民は？？？と思っただろう。

18:30 リーダーから明日の予定は、浜益御殿〜浜益岳の変更が告げられた後、Wさんの新人歓迎を兼ねて、夕食、酒談話、Sさんの替歌の山賛歌のサプライズあり、楽しく時を過ごし、就寝する。

4月22日 浜益御殿(1038. 6m)



リンゴ園から林道を歩く。



雑木林の中をショートカット。



ショートカットで林道に出て休憩林道より浜益岳望む



6:25 予報では晴れ・風ありであるが、朝は風なしの中、暑寒別岳を惜しみつつ民宿を出発する。

雄冬岬を超え、浜益へ向かうにつれ風が出だし海岸は、白波がたっている。7:20 林道入り口のリンゴ園に到着。今回は、急きょ山変更の為、地図を持たずに記憶を頼りに林道を歩きだす。出だしの林道は雪解けも進み、路肩も見え、かなりスキーには悪路である。ヘアピンが多いので、過去の経験とヤマ勘を頼りに枯枝が落ちた林の道をショートカット、スキーがかわいそうで自分は少し足取りが重い。神社側からの林道交差点(330m地点)にくと、スキー、ツボ足組3、4人のトレースが先行していた。

林の中は、さほど風を受けないが、木々の先は1m程度揺れ、風が強いわかる中、林道を進むと浜益岳と郡別岳が見えてきたがかなり遠



大阪山より浜益岳を望む



浜益御殿に向け樹林帯を歩く

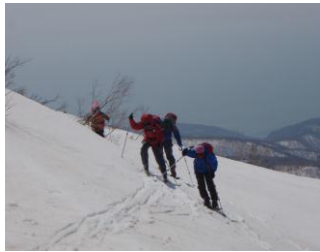
10:00 大阪山(533m)に到着。やはり風があり、浜益御殿を目指すか躊躇するが、休憩して向かうこととする。

一度、ダウンして広い尾根を進むと、スノーモービル進入禁止の横断幕を通過して樹林帯を進む、樹林帯後半近くで野営している2人組に出会う。

11:00 800m過ぎから尾根が広くなりだし、下りは左方向へ行かないよう、ルート旗を所々立て進む。それとともに樹林が少なくなると風も強くなり、防寒着を着て風対策、風を避けて尾根をトラバース気味にするが、時折の強風(十数mありそうな)に飛ばされそうになる、Nさんは風に負けて転倒する場面もあり風の恐ろしさを痛感する。ちょっとした木立の中で、郡別と浜益岳に登り終えテントを撤収している4人組を尻目に少しずつ隊がバラケ気味になりつつ進むことになる。稜線に出てから意外と長く感じながらトラバース気味に歩くが、雪が固く谷川の板が滑り手こずる。



強風の中、フードをかぶり進



強風の中、踏ん張りながら進

12:00 やっと風に勝ち、健脚な先頭組のF、Sさん、Oちゃんさんが立っている頂上にでるが、奥に見えるのが浜益御殿で、ここは浜益御殿手前の肩でニセピーク呼ばれている所と知らされ、少し愕然となる。

しかし、晴天に恵まれ、雄冬、浜益岳と連なる白い雄大な眺望には圧倒されるものがある、登ってきてよかった。

特に今年、Oさんが走破できなかった雄冬を目のあたりすると、チャレンジする気持ちがわかるような気がする。

後続隊も無事到着したことにより、風も強く、時間的に迫っているの



左に雄冬、右に浜益御殿



雄冬をバックにSさん



雄冬をバックにOさん



浜益をバックにWさん



浜益御殿の前峰で雄冬をバックに記念撮影

12:20 浜益岳は次回にチャレンジということで、シャーベット状の雪を滑り下山。

白樺林の中に入るまでは、時折の強風でコントロールが効かず流され、滑走時の風の恐ろしさを痛感した。

12:45 風のない樹林帯の中で、青空の下で雪上テーブルを囲み30分程度昼食をとり、また樹林の中を滑り下りる。

13:40 シールを付けて登り返しの大坂山に戻る。

15分ほど、登ってきた斜面を滑り、林道に出る。

後は、林道は朝方に比べ、雪解けは進んでいたが雪のある所を探しショートカットで下り、

14:30 無事にP場に戻る。



広い尾根を滑走(降りるために滑りでした。)



樹林帯の中、青空の下で、昼食

また、浜益の「漁師の店」に立ち寄り、タコなどのお土産買いをして、浜益温泉で入浴。

16:30 ここで、Oちゃんとお別れし、R231 厚田・石狩経由で札幌から高速に乗り、帰路につく。

2日間とも好天に恵まれ、本命の暑寒別岳は次回へのリベンジとして、春先の増毛山系の白く雄大な山々を眺望でき、満足でした。

運転者にとっては、2日間渡る長旅、本当にお疲れ様でした。車を出してくださる方あつての山行と感謝しています。